

見いきまい 発掘調査

キー坊 お父さん、うちの近所で発掘調査しょんで。

父 え、ほんま。ほんだら見に行こうで!

母 わたしも行きたいわ!

父 わー! おじさんやおばさんがようけ働きよる
なあ。うちんくのそばにも遺跡はあるんやの。



写真 1

キー坊 見てん、お父さん。いろんな大きさの穴や溝がようけあるわあ。何んやろう?

母 調査しとる人に聞いてみまい。

調査員 この直径5m位の穴は、昔の人が暮らしていた家の跡で、その向こうに小さな穴が3個づつ2列に
並んでいるのが高床の倉庫だよ。

父 どなんしてわかるんなあ? 何んか記録でもあるんなあ?

調査員 いいえ、違います。わたしたちは土の色や粒の大きさなどのわずかな違いによって、これらの
遺溝を見つけるんです。家の床にある4個の穴は柱の跡です。

母 真ん中にある穴は何んなあ?

調査員 炉の跡です。ここで食べ物を煮炊きし、暖房やあかりとしても使われていました。

父 古い民家にある「囲炉裏」と同じやの。

キー坊 どんなものが出てくるん?

母 この家に住んどった人が使いよった茶碗が出てくるやろうと思うわあ。

調査員 そうです。食べ物を入れたり煮炊きするための
の壺や甕などの土器や稲穂を摘む石包丁など
の石器、木製品が見つかります。その一部は
昭和町にある高松市歴史資料館に展示してい
ますので、見に行きまい。



写真 2

父 ほんだら見に行ってみるか。

キー坊 わーい、早く行こう!!

キモンドー遺跡

——高松市伏石町——

現在、高松市内には史跡である屋島城・高松城をはじめとして、下図のように70ヶ所の古城跡があると言われています。そのひとつである「佐藤城」は伏石神社の付近であろうと推測されていましたが、明確な根拠がありませんでした。ところが、平成5年8～11月にかけての第1次調査によって、城跡を囲む堀跡の南東コーナーが発見されました。（「むかしの高松」第4号をご覧ください。）

平成7年8～9月に行われた第2次調査は、第1次調査の堀跡の続きを確認する意味で実施されました。その結果、石積みの堀跡が約70m以上続くことがわかり、「キモンドーさん」と呼ばれている小さな祠ほこらのある場所まで達していました。この祠は城跡の鬼門（北東の方向）にあたり、南東コーナーからの距離は約109mです。

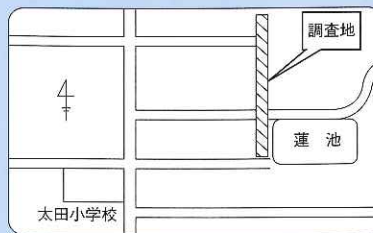
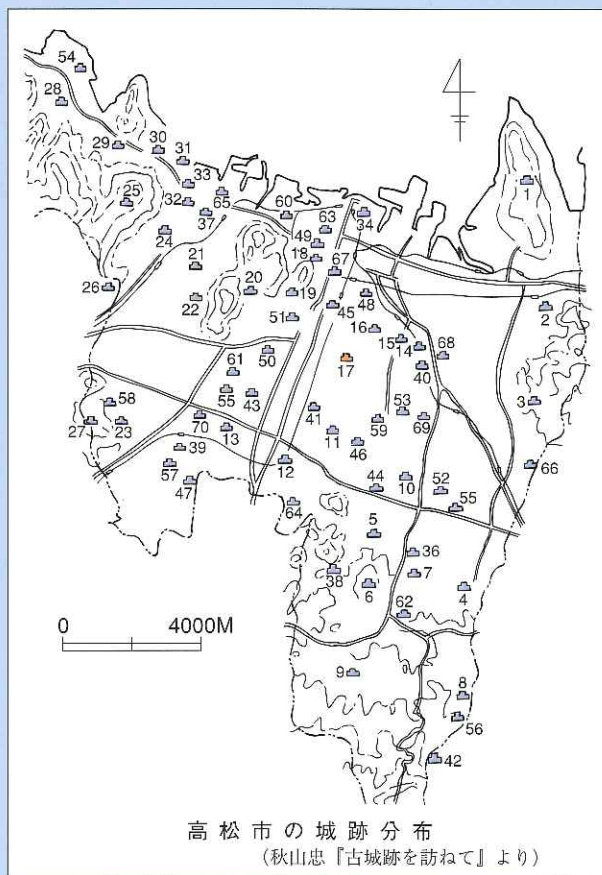
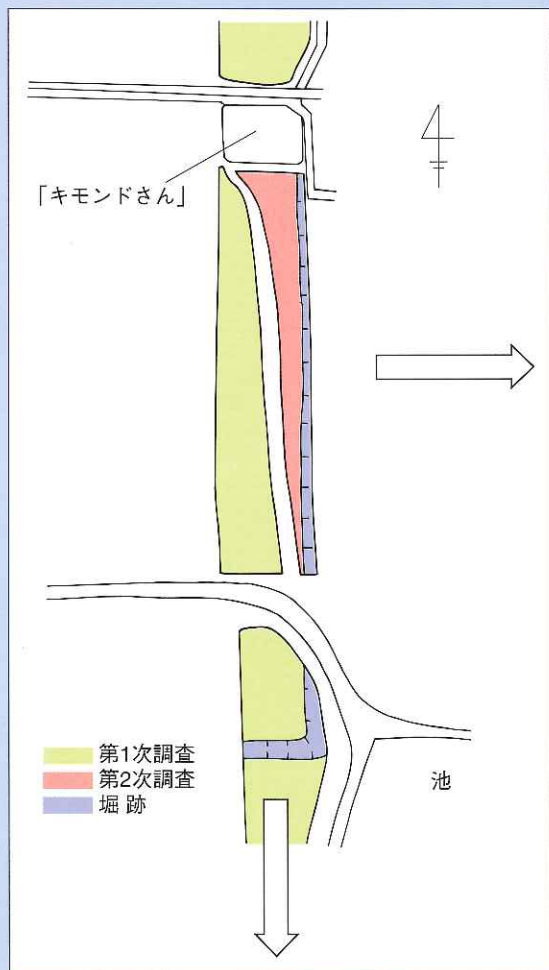


写真 3





- 佐藤城——戦国時代の終わり頃に香東郡太田郷伏石一帯を所領としていた香西氏の部将・佐藤孫七郎の居城。
- 佐藤孫七郎——居石五郎兵衛の長男で、香西佳清の部将である。『南海治乱記』によると、天正10年（1582）8月5日、藤尾城周辺での激しい戦いにおいて討ち死にした。



写真 6



写真 4



写真 7



写真 5



写真 8

境目・下西原遺跡 —高松市松縄町—

都市計画道路木太一鬼無線の建設に先立つ境目・下西原遺跡は、平成7年1～4月に発掘調査を行いました。遺跡の範囲は、木太中学校の北側を東端とし、西へ約300mの間です。この遺跡の西側には古代の道路が見つかった松縄下所遺跡があります。（「むかしの高松」第4号を参照してください。）

遺跡は弥生時代末から近世までの複合遺跡で、主な遺構としては弥生時代・古代の溝、水田、川跡をはじめ、中世の水田、近世の穴などを検出しました。

西端にある水田（写真9）は、不定形小区画水田と呼ばれる非常に小さな水田で、その上面には牛のものと思われる足跡が多数残っており、すぐ横の川底（写真10）からは下顎の骨と歯（写真11）が出土しました。



写真 9



写真 10



写真 11



写真 12

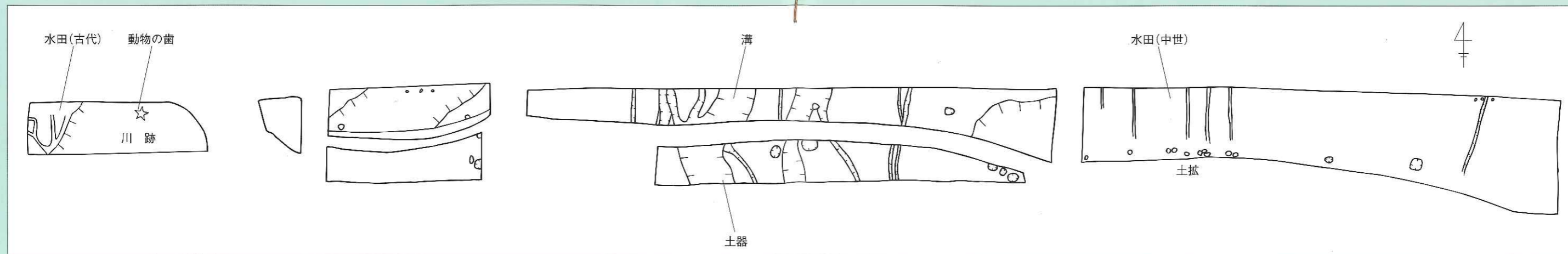


写真 13



写真 14

調査区の中央部からは、幾本もの溝を検出しました。溝の大きさは大小さまざまで、最小は幅30cm、深さ15cmにすぎず、もっとも大きい溝（写真12）は幅5m、深さ1.3mです。これらの溝は出土した土器から考えると、古代と弥生時代の終わり頃の2つの時代に分けることができます。溝の方向は南から北に流れています。



調査区の東側は、非常に古い川跡があるため、わずかに低い凹地になっていました。そこは古代の終わりから中世初め頃に水田（写真15）が作られたらしく、南北に直線で延びる畦畔（アゼ）が見つかりました。畦畔の間隔は約5mで、古代の土地区画である条里制に基づいた区画となっています。写真16はその水田から出土した土器です。もしかするとこの水田を耕作していた人が使っていたのかもしれません。



写真 15



写真 16

考古学の
豆知識

考古学の世界では、何々時代という言葉がたびたび使われます。時代の区分として便利な言葉ですが、その実年代はすぐに思い出すことができません。そこで、最新の考古学年表を作りました。これは、文化庁編の『発掘された日本列島'95新発見考古速報』に載っている年表を参考にしました。

		年代													年代															
		一九〇〇	一八〇〇	一七〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一四〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一一〇〇	一〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	A, D 三〇〇	紀元後	紀元前	B, C 三〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇	B, C 四〇〇〇	(一万三〇〇〇年前)	B, C 一〇〇〇〇	三万五〇〇〇年前	五〇万年前	年代
現在	江戸時代	安土桃山時代	室町時代	南北朝時代	鎌倉時代	平安時代	奈良時代	飛鳥時代	古墳時代	弥生時代			縄文時代				旧石器時代			時代										
										後期	中期	前期	晩期	後期	中期	前期	早期	草創期	後期		中期	前期	主なできごと							
					一一九二年 源頼朝、鎌倉幕府を開く		七一〇年 平城京に遷都	六四五年 大化の改新	五三八年 百濟から仏像・経典が伝来	巨大な前方後円墳の築造	二二九年 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る	倭国内乱が続く	九州北部に水田稲作が伝わる	青銅器の製作	各地に大規模な縄文集落が形成	気候の温暖化・海水面の上昇	縄文土器の使用	石斧・ナイフ形石器	日本列島に人が住み始める											

弘福寺領讃岐国山田郡田図

高松平野は、条里地割が非常に良好にかつ広範囲に残っていることで全国的に知られた地域です。今回紹介する「弘福寺領讃岐国山田郡田図」は、今から約1300年前の天平7年（735）の年号を持つ日本最古の田図であり、国の重要文化財に指定されています。

この絵図は、奈良時代の荘園を描いており、北地区と南地区に分かれています。北地区は現在の大池の南側付近であると考えられ、「三宅」と称される建物や、井戸、人夫の家、田畠などが描かれています。南地区は旧高松空港の北西側です。

高松市教育委員会では、昭和62年から5年間、考古学、歴史地理学、古文書学、民俗学、自然科学による総合的な調査を行い、大いに注目されています。

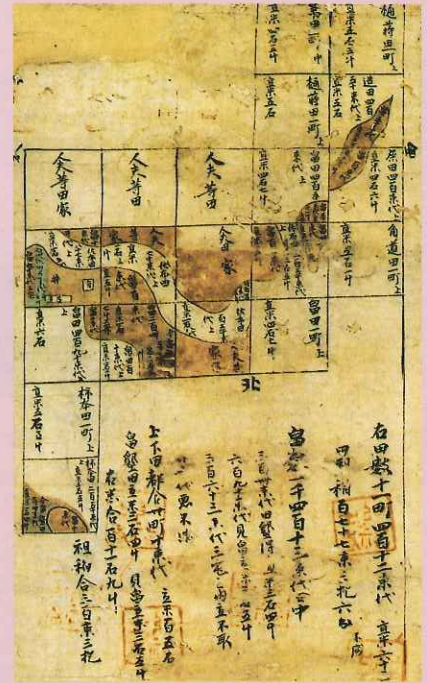
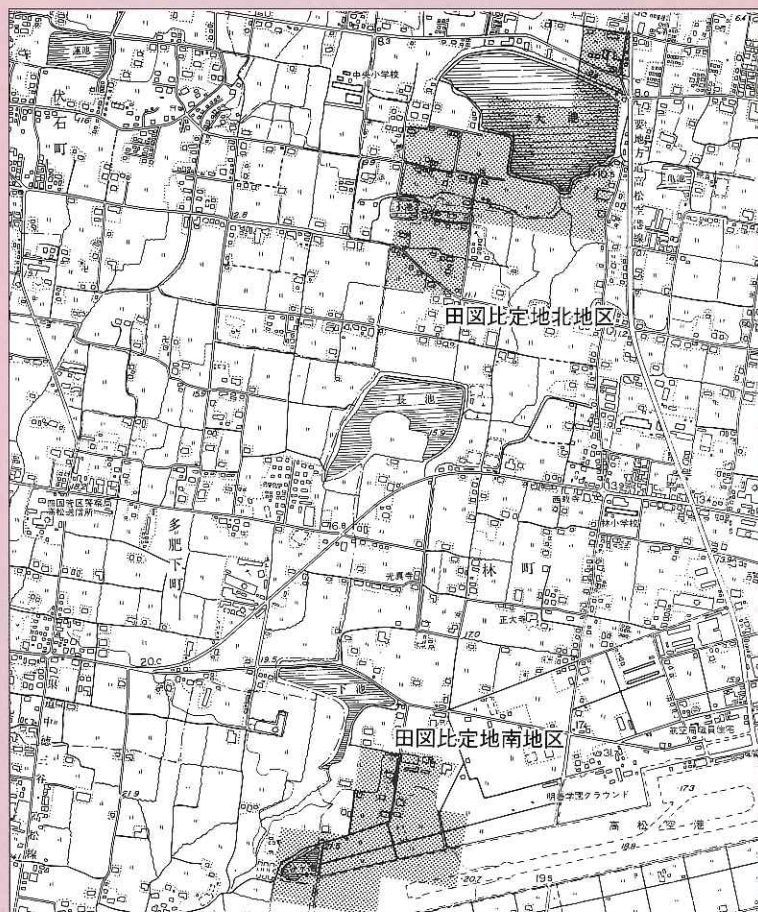


写真 17 (多和文庫所蔵)



トピックス

弥生時代に大地震があった!!

—— 松 林 遺 跡 ——

弥生時代の大規模な地震によって液状化現象が起きたことを示す噴礫（ふんれき）が、松林遺跡の調査で見つかりました。噴礫は長さ約4m、幅40cmにわたって数cm～こぶし程度の石が粘土層の下から噴き出したもので、震度6以上の強烈な地震があったことを示しています。



写 真 18 (四国新聞社提供)

編集後記

1ページ目をスラスラと読めたあなたは立派な高松っ子です。できなかった人はもう一度声を出して読んでみて下さい。(N)

むかしの高松 第7号

1996.3.31

編 集／高松市教育委員会文化部文化振興課
高松市番町一丁目8番15号

☎39-2636

発 行／高松市教育委員会文化部文化振興課
印 刷／株式会社 中央印刷所